

情報科学科の人材養成の目的

【学部の人材養成の目的】

幅広い教養と倫理観、コミュニケーション力と情報科学分野の知識と技術を有し、多様な価値観と新しい発想のもと、社会の課題発見と解決、さらには持続的な社会の実現に、情報科学の専門職として主体的な役割を果たすことのできる人材を育成する。

【学科の人材養成の目的】

社会で求められる基盤能力としてのコミュニケーション力、課題発見解決力、自らを律し、学び続ける力並びに多様な視点から物事を捉え異なる意見を理解する力を身に付け、加えて知能情報処理や情報システムなどの情報科学分野に関する知識と技術を修得し、それらを総合的に活用して変化の激しい高度情報化社会の構築、維持、発展を支え得る人材を養成する。

情報科学科ディプロマ・ポリシー

情報科学科は、「科学的市民」の育成という教育理念のもとに以下の資質や能力を身につけ、所定の授業科目を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に、学士（工学）の学位を授与します。

1. コミュニケーション力

自分の考えを論理的かつ適切な表現で説明、記述、発表する能力を有し、他者と適切なコミュニケーションを取ることができる。

2. 課題発見解決力

科学的かつ論理的な思考能力と情報及び情報手段を適切に選択して活用する能力を有し、他者とも協力しながら、現状を分析し課題を発見して解決することができる。

3. 自らを律し、学び続ける力

目標達成のための計画を立案・遂行できる能力を有し、情報科学に関連する知識と技術を自主的かつ継続的に学習するのみならず、他分野で活用する方法について探求することができる。

4. 多様な視点から物事を捉え、異なる意見を理解する力

技術者として必要な社会的責任と倫理を理解するとともに、異なる社会的・文化的背景を持つ人たちと自分たちの文化的な差異を認識し、共生に向けた行動をとることができる。

5. 専門的知識・技能を修得し、実践する力

情報科学に関する専門的知識並びに情報機器の操作・運用技術を身につけ、現代社会における様々な課題に応用して利活用できる。

6. 総合力

獲得した能力や知識・技術を総合的に活用して社会における様々な課題の解決策を提案・実行できる。

情報科学科カリキュラム・ポリシー

情報科学科では、HUS スタンダード科目、共通科目、専門教育科目の有機的な結合によって、情報技術者としての専門能力と専攻分野を通じて学士力を培うことを目指したカリキュラムを設計します。このことを明確にするために、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性・関連性を体系的に理解できるようカリキュラム・ツリーを作成します。さらに、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、及び改善を行います。学修成果やカリキュラムの点検評価の方針をアセスメントプランとしてまとめています。

1. 基盤能力の修得に向けて①コミュニケーション力、②課題発見解決力、③自らを律し、学び続ける力、④多様な視点から物事を捉え、異なる意見を理解する力を養う HUS スタンダード科目を配置します。
2. 専攻分野に必要な基本スキルを育成するための HUS スタンダード科目、共通科目を配置し、領域ごとに最適化された専門知識・技能修得のための専門教育科目を配置します。
3. 基盤能力と専門的知識・技能に関連する科目を体系的、効率的に修得できるよう配置します。
4. 自ら学ぶ力の醸成や能動的学修をサポートするため、充実した学内 LAN 環境、e-learning 環境などの優れた IT 環境を提供します。
5. 現代社会のニーズに対応する力を育成するため、情報科学や情報工学の基礎から最新かつ高度な知識及び技能を学ぶ専門教育科目を配置します。
6. 情報技術者として実践的な経験を積み、協力・協調する姿勢、自ら課題を発見し、問題を解決する能力、専門的な知識や技術を活用する能力を身につけるため、現実的な課題を題材とした教材を活用し、少人数グループで行う演習科目、実験科目を実施します。
7. 自らの力を客観的に評価する情報系資格取得へのチャレンジやシステム開発技術の修得を通して、能動的学習能力と実践的能力を育成します。
8. 各授業科目の成績評価については、成績評価ガイドラインに則り、厳格かつ公正に行います。
9. 学生の学修成果については、アセスメントプランに定めた方法及び収集した情報に則り、評価します。

情報科学科 アドミッション・ポリシー

① 基本方針

情報科学や情報工学は、情報を科学的・工学的手法によりさまざまな形で利用する総合的な学問分野です。情報の生成、情報の伝達、情報の収集、情報の蓄積、情報の処理などの分野があり、それぞれ大きな発展を遂げてきました。

情報科学科では、コンピュータのソフトウェアやコンピュータと人間とのコミュニケーションを基礎として、人工知能、インターネットを利活用するためのネットワークやサーバの技術、社会や生活のあらゆるところにコンピュータの利便性をもたらす新しい情報技術についての教育・研究を行います。

そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像

求める人材像	知識 技能	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性
情報技術を利用した、安心・快適な社会の実現に向け意欲のある人	△	○	◎
産業の活性化を支える実践的人材を志す人	○	◎	△
生涯にわたり、自らの専門能力を高め、広げることに意欲を持っている人	△	◎	○
情報科学を学ぶための基礎学力を有し、高い勉学意欲のある人	◎	○	△

③ 学力の3要素と求める多面的な評価

学力の3要素

知識・技能	→	学力試験	調査書	発表	推薦書	面接	口頭試問
思考力・判断力・表現力	→	学力試験	調査書	発表	課題提出	面接	
主体性・多様性・協働性	→	推薦書	面接	自己推薦書			

④ 入学者選抜方法における評価の比重

入学者選抜方法	学力試験	調査書	発表	課題提出	推薦書	面接	自己 推薦書	口頭 試問
総合型選抜	△	—	◎	—	—	○	△	—
学校推薦型選抜(系列校)	—	○	—	○	○	◎	—	△
学校推薦型選抜(指定校)	—	○	—	—	○	◎	○	△
学校推薦型選抜(公募)	△	△	—	—	○	◎	○	—
自己推薦型選抜	○	△	—	—	—	◎	○	—
一般選抜[前期・後期学力型]	◎	—	—	—	—	—	—	—
一般選抜[後期総合評価型]	◎	△	—	—	—	○	—	—
一般選抜(共通テスト利用選抜)	◎	—	—	—	—	—	—	—
外国人留学生選抜	○	—	—	—	—	◎	—	—

⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

- ・情報科学に関心を持ち、情報科学を学ぶために必要な国語、数学、英語などの基礎的な知識や技能を有していること。
- ・基礎的な知識や技能に基づいて問題を論理的に考察し解決することに努め、自身の考えを表現することができること。
- ・自らの成長のために主体的に行動し、他者に働きかけ多様な意見や考えを共有しながら問題解決に取り組むことができること。

※記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。